

### 13 文献総合目録

(1) 令和2年度に発表等を行った文献数一覧

(単位：編)

学 会 誌		公刊図書	機関誌	計
論文・報告	発表・講演要旨			
43	96	2	61	202

## (2) 令和2年度に発表等を行った文献の目録

### 01 育種一般及び育種計画

#### 011 総説

1. 高橋誠、生方正俊、林業の成長産業化に向けた林木育種の取組み、林経協季報柚径、58:6-15、2020.10.
2. 高橋誠、気候変動適応策のための林木遺伝資源と林木育種の取組み、森林学の百科事典(日本森林学会編・丸善出版、704頁)、620-621、2021.01.
3. 井城泰一、令和元年度東北育種基本区における新品種の開発、東北の林木育種、224:4、2020.07.
4. 三浦真弘、トレーサビリティ・システム構築の取組み、関西育種場だより、93:4、2020.12.
5. 久保田正裕、令和元年度に開発した新しい品種について、九州育種場だより、41:2、2020.07.
6. 久保田正裕、令和2年度に九州育種場が開発した抵抗性クロマツ品種、九州育種場だより、42:5、2021.01.

#### 012 育種計画

1. ETO Shinsuke(江藤信輔・電気通信大学)、MASUDA Hiroshi(増田宏・電気通信大学)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎・静岡県立農林環境専門職大学)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Precise calculation of cross sections and volume for tree stem using point clouds. (大規模点群を用いた樹幹の材積と断面形状の詳細推定)、The International Archives of Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences、43:205-210、2020.08.
2. 松下通也、スギにおける気候変動適応に向けた育種技術の開発、林木育種成果発表会(令和2年度)、#4、2021.02.
3. 坪村美代子、小長谷賢一、高橋誠、花粉症対策のためのスギの育種、臨床免疫・アレルギー科、74(6):613-618、2020.12.
4. 武津英太郎、林木育種における形質評価の取組み、山林、1633:28-35、2020.06.
5. 久保田正裕、スギエリートツリー等の普及に向けた共同試験地の設定、九州育種場だより、41:3、2020.07.
6. 小長谷賢一、薬用樹木「カギカズラ」の栽培・収穫技術体系の確立と未利用部位の活用に関するプロジェクトが始動、林木育種情報、34:5、2020.07.

### 02 遺伝、育種及び変異

#### 021 選抜

1. 安田悠子、井城泰一、高島有哉、三嶋賢太郎、高橋誠、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、スギ精英樹人工交配家系における非破壊測定法による立木材質の遺伝獲得量と選抜効率の評価、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P41、2021.03.
2. 平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、江藤信輔(電気通信大学)、松下通也、高橋誠、増田宏(電気通信大学)、地上LiDAR再計測による試験林の成長モニタリング、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:17(P20)、2020.11.
3. 松下通也、大規模データから明らかにするスギの成長における環境応答性、日本森林学会大

- 会学術講演集、132:S9-2、2021. 03.
4. 平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、江藤信輔(電気通信大学)、松下通也、高橋誠、増田宏(電気通信大学)、地上 LiDAR 再計測による試験林の成長モニタリングと樹幹形状解析、日本森林学会大会学術講演集、132:P-168、2021. 03.
  5. 花岡創、樹冠率を組み込んだモデルによる高樹齢林分における胸高直径の遺伝率の改善、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:15(P16)、2020. 11.
  6. 花岡創、中田了五、辻山善洋、佐々木洋一、北海道育種基本区におけるアカエゾマツ第2世代精英樹候補木の選抜—令和元年度の実施結果—、林木育種センター年報(令和2年版)、104-106、2021. 03.
  7. 宮下久哉、岩泉正和、河合貴之、関西育種基本区におけるスギ第二世代精英樹候補木の選抜—四高局47-1号における実行結果—、林木育種センター年報(令和2年版)、119-121、2021. 03.
  8. 高島有哉、前方選抜による初期成長に優れた第二世代カラマツ品種の開発について、林木育種情報、34:2、2020. 07.
  9. 高島有哉、田村明、関東育種基本区における前方選抜による初期成長に優れた第二世代カラマツ品種の開発、林木育種センター年報(令和2年版)、113-115、2021. 03.

### 0 2 3 変異(系統分類、倍数体を含む)

1. NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、HIRAO Tomonori(平尾知士)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、IKI Taiichi(井城泰一)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学農学部)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎)、SNP genotyping with target amplicon sequencing using a multiplexed primer panel and its application to genomic prediction in Japanese cedar, *Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don. (マルチプレックスプライマーパネルを用いたターゲットアンプリコンシーケンシングによるスギのSNP ジェノタイピングとゲノミック予測への応用)、Forests、11(8):898、2020. 08.
2. 永野聡一郎、能勢美峰、高島有哉、松下通也、平尾知士、三嶋賢太郎、継続的な高温環境がスギの遺伝子発現パターンに与える影響、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:11(P07)、2020. 11.
3. 永野聡一郎、遺伝子発現解析によるスギの環境応答性評価の可能性、日本森林学会大会学術講演集、132:S9-5、2021. 03.
4. 三嶋賢太郎、スギ無花粉遺伝子をヘテロで保有する精英樹系統のリソースの構築とその利用、林業いばらき、759:9、2020. 10.
5. 三嶋賢太郎、平川英樹(かずさDNA研究所)、井城泰一、福田陽子、平尾知士、田村明、高橋誠、カラマツとグイマツの完全長 cDNA 配列の取得と種間比較、日本森林学会大会学術講演集、132:P-132、2021. 03.
6. 松下通也、講座：森林遺伝育種のデータ解析方法(実践編 2) 正則化回帰(Lasso 回帰・Ridge 回帰)、森林遺伝育種、9(4):135-136、2020. 10.
7. 山田浩雄、河合慶恵、今野敏彦、飯田啓達、竹澤敏博(奈良森林管理事務所)、スギの天絞形質の発現におけるクローン間差と増殖方法の影響、林木育種センター年報(令和2年版)、122-125、2021. 03.
8. 平尾知士、平川英樹(かずさDNA研究所)、松永孝治、三嶋賢太郎、能勢美峰、クロマツにお

- ける RNA-Seq データからの高密度連鎖地図の作製、日本森林学会大会学術講演集、132:P-130、2021. 03.
9. 武津英太郎、栗田学、久保田正裕、三浦正弘、松下通也、高島有哉、上杉基(宮崎県林業技術センター)、UAV によるスギ若齢木の樹冠形状計測と系統間差の解析、日本森林学会大会学術講演集、132:P-169、2021. 03.
  10. 石塚航(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)、松尾歩(東北大学)、陶山佳久(東北大学)、福田陽子、花岡創、新田紀敏(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)、小野清美(北海道大学低温科学研究所)、原登志彦(北海道大学低温科学研究所)、グイマツ遺伝資源の系統構成の偏りを葉緑体ゲノムスクリーニングで調べる、日本森林学会大会学術講演集、132:F7、2021. 03.
  11. 谷口亨、小長谷賢一、七里吉彦、Somatic embryogenesis in artificially pollinated seed families of 2nd generation plus trees and cryopreservation of embryogenic tissue in *Cryptomeria japonica* D. Don (Sugi). (スギにおける第二世代精英樹の人工交配種子の不定胚形成と不定胚形成細胞の凍結保存)、*Plant Biotechnology*, 37(2):239-245、2020. 06.
  12. KURITA Manabu(栗田学)、MISHIMA Kentaro(三嶋賢太郎)、TSUBOMURA Miyoko(坪村美代子)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、NOSE Mine(能勢美峰)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Transcriptome Analysis in Male Strobilus Induction by Gibberellin Treatment in *Cryptomeria japonica* D. Don. (スギのジベレリン処理による雄花着花誘導におけるトランスクリプトーム解析)、*Forests*, 11(6):633、2020. 06.
  13. AIZAWA Mineaki(逢沢峰昭・宇都宮大学農学研究科)、IWAIZUMI G. Masakazu(岩泉正和)、Natural hybridization and introgression of *Abies firma* and *Abies homolepis* along the altitudinal gradient and genetic insights into the origin of *Abies umbellata*(標高傾度に沿ったモミとウラジロモミの天然雑種形成と遺伝子浸透およびミツミネモミの由来に関する遺伝的知見)、*Plant Species Biology*, 35(2):147-157、2020. 04.
  14. 加藤朱音(筑波大学生命環境科学研究科)、湯本景将(筑波大学生命環境科学研究科)、相原隆貴(筑波大学生命環境科学研究科)、岩泉正和、磯田圭哉、高橋誠、生方正俊、Michael P. Nobis(スイス連邦研究所)、齊藤陽子(東京大学農学生命科学研究科)、津田吉晃(筑波大学生命環境系)、亜高山帯および冷温帯に分布するカバノキ属複数種の時空間的集団動態史、日本森林学会大会学術講演集、132:F8、2021. 03.
  15. 福田有樹、遺伝子発現解析によるスギの不定根形成に関連する分子生物学的要因の解明、*森林遺伝育種*, 9(4):137-143、2020. 10.
  16. 福田有樹、栗田学、久保田正裕、渡辺敦史(九州大学)、空中さし木法によるスギさし木発根過程における遺伝子発現変動、日本森林学会大会学術講演集、132:P-133、2021. 03.
  17. Nabuqi(東京農工大学)、Nuoendagula(東京農工大学)、Sejirihu Wu(東京農工大学)、TAKATA Naoki(高田直樹)、SAKAMOTO Shingo(坂本真吾・産業技術総合研究所)、YAMAMOTO Masanobu(山本雅信・東京農工大学)、UESUGI Mikiko(上杉幹子・東京農工大学)、Annabelle Déjardin(フランス国立農学研究所)、Gilles Pilate(フランス国立農学研究所)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、MITSUDA Nobutaka(光田展隆・産業技術総合研究所)、KAJITA Shinya(梶田真也・東京農工大学)、Simultaneous manipulation of lignin structure and secondary cell wall formation in transgenic poplar. (組換えポプラにおけるリグニン構造と二次細胞壁形成の同時操作)、*Journal of Wood Science*, 66:56、DOI:10.1186/s10086-020-01902-2、2020. 08.

18. HORI Chiaki (堀千明・北海道大学)、TAKATA Naoki (高田直樹) (筆頭者同等)、Pui Ying Lam (京都大学)、TOBIMATSU Yuki (飛松裕基・京都大学)、NAGANO Soichiro (永野聡一郎)、Jenny C. Mortimer (米国バイオエネルギー共同研究所)、Dan Cullen (米国農務省林産研究所) \*These authors equally contributed to this study.、Identifying transcription factors that reduce wood recalcitrance and improve enzymatic degradation of xylem cell wall in poplar. (ポプラの木質難分解性を減少させ木部細胞壁の酵素分解を改善する転写因子の同定)、Scientific Reports、10:22043、DOI: 10.1038/s41598-020-78781-6、2020.12.
19. TAKATA Naoki (高田直樹)、AWANO Tatsuya (栗野達也・京都大学)、Pui Ying Lam (ラム イン プイ・京都大学)、SUZUKI Shiro (鈴木史朗・岐阜大学)、TOBIMATSU Yuki (飛松裕基・京都大学)、MITSUDA Nobutaka (光田展隆・産業技術総合研究所)、KUTSUNA Natsumaro (朽名夏磨・エルピクセル株式会社)、YAMAGISHI Yusuke (山岸祐介・北海道大学)、TANIGUCHI Toru (谷口亨)、Identification of transcription factor involving in S2 layer formation of secondary cell wall (SCW) in Populus. (二次壁 S2 層形成に関与する転写因子の同定)、日本植物生理学会年会講演要旨集、62:1pA01、2021.03.
20. 高田直樹、栗野達也 (京都大学)、Pui Ying Lam (京都大学)、飛松裕基 (京都大学)、鈴木史朗 (岐阜大学)、光田展隆 (産業技術総合研究所)、朽名夏磨 (エルピクセル株式会社)、山岸祐介 (北海道大学)、永野聡一郎、谷口亨、S2 層形成を制御する転写因子の探索と機能解析、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:3-01-09、2021.03.
21. YAMAMOTO Masanobu (山本雅信・東京農工大学)、TOMIYAMA Hirokazu (富山浩和・農業・食品産業技術総合研究機構)、KOYAMA Akio (小山朗夫・農業・食品産業技術総合研究機構)、OKUIZUMI Hisato (奥泉久人・農業・食品産業技術総合研究機構)、Sarah Liu (ウイスコンシン大学)、Ruben Vanholme (フランダースバイオテクノロジー研究機関)、Geert Goeminne (フランダースバイオテクノロジー研究機関)、HIRAI Yuta (平井裕大・東京農工大学)、Hu Shi (東京農工大学)、Nuoendagula (諾恩達古拉・東京農工大学)、TAKATA Naoki (高田直樹)、IKEDA Tsutomu (池田努)、UESUGI Mikiko (上杉幹子・東京農工大学)、Hoon Kim, e, f Shingo Sakamoto (坂本真吾・産業技術総合研究所)、MITSUDA Nobutaka (光田展隆・産業技術総合研究所)、Wout Boerjan (フランダースバイオテクノロジー研究機関)、John Ralph (ウイスコンシン大学)、KAJITA Shinya (梶田真也・東京農工大学)、A century-old mystery unveiled: Sekizaisou is a natural lignin mutant. (100 年間続いた謎が解けた。赤材桑はリグニン変異体である)、Plant Physiology、182:1821-1828、DOI:10.1104/pp.19.01467、2020.04.
22. 高田直樹、小長谷賢一、七里吉彦、バイオテクノロジーを利用した樹木の形質改良、日本学術振興会植物バイオ第 160 委員会 第 5 期研究会、13:1-2、2021.01.
23. 高田直樹、細胞壁厚を定量化する手法の提案、植物細胞壁研究者ネットワーク定例研究会、14:セッション 2、発表番号 7、2021.03.
24. 八田雄貴 (京都大学)、近藤辰哉 (京都大学)、今井友也 (京都大学)、七里吉彦、高田直樹、Construction of an expression system for softwood cellulose synthase. (針葉樹セルロース合成酵素の発現系構築)、第 433 回生存圏シンポジウム 第 17 回持続的生存圏創成のためのエネルギー循環シンポジウム 第 10 回先進素材開発解析システム (ADAM) シンポジウム講演要旨集、発表番号 7、2020.10.
25. 八田雄貴 (京都大学)、近藤辰哉 (京都大学)、今井友也 (京都大学)、七里吉彦、高田直樹、針葉樹におけるセルロース合成酵素の発現系の構築、日本木材学会大会研究発表要旨集、

- 71:1P01、2021. 03.
26. 八田雄貴(京都大学)、近藤辰哉(京都大学)、今井友也(京都大学)、七里吉彦、高田直樹、針葉樹におけるセルロース合成酵素の発現系の構築、植物細胞壁研究者ネットワーク定例研究会、14:セッション3、発表番号15、2021. 03.
  27. KONAGAYA Ken-ichi(小長谷賢一)、NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、A protocol for Agrobacterium-mediated transformation of Japanese cedar, Sugi (*Cryptomeria japonica* D. Don) using embryogenic tissue explants. (不定胚形成細胞を用いたスギのアグロバクテリウム法による形質転換プロトコール)、Plant Biotechnology、37(2):147-156、2020. 06.
  28. OKUZAKI Ayako(奥崎文子・玉川大学)、TSUDA Mai(津田麻衣・筑波大学)、KONAGAYA Ken-ichi(小長谷賢一)、TABELI Yutaka(田部井豊・農研機構)、A novel strategy for promoting homoplasmic plastid transformant production using the barnase-barstar system. (バルナーゼ・パルスターシステムを用いたホモプラズミック化葉緑体形質転換体の生産を促進するための新規戦略)、Plant Biotechnology、37(2):223-232、2020. 06.

### 03 樹種、品種の選択と植栽試験

#### 031 次代検定(育種効果を含む)

1. 玉城聡、エゾマツの試験地(北北3号検定林、北適応見3号検定林)から得られた結果の紹介、北海道の林木育種、63(2):31-34、2020. 12.
2. 花岡創、伊東宏樹、アカエゾマツの根元曲がりと幹曲がりの発生に関する地域間及び遺伝的変動、森林立地、62(1):39-50、2020. 06.

### 04 採種園、結実促進、その他有性繁殖

#### 041 採種園関係

1. 加藤一隆、トドマツ雄花当たり花粉量にみられるクローン間変異、日本森林学会大会学術講演集、132:P-167、2021. 03.
2. 三浦真弘、宮下久哉、大城浩司、坂本庄生、山田浩雄、関西育種基本区のヒノキ採種園の現状について—アンケート調査の結果—、応用森林学会大会研究発表要旨集、71:A18、2020. 11.
3. 岩泉正和、三浦真弘、片桐智之(岡山県林政課)、吉岡寿(元広島県総合技術研究センター林業技術センター)、大池航史(山口県森林企画課)、杉本博之(山口県岩国農林水産事務所)、抵抗性アカマツ採種園種苗の抵抗性における母樹の性能と交配組合せの効果、日本森林学会大会学術講演集、132:P-162、2021. 03.
4. 松永孝治、マツノザイセンチュウ抵抗性マツをどう使うか?、森林遺伝育種、10(1):27-30、2021. 01.

#### 042 着花促進、種子生産性等

1. MATSUSHITA Michinari(松下通也)、NISHIKAWA Hiroki(西川浩己・山梨県森林総合研究所)、TAMURA Akira(田村明)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Effects of light intensity and girdling treatments on the production of female cones in Japanese larch (*Larix kaempferi* (Lamb.) Carr.): Implications for the management of seed orchards. (二ホンカラマツの球果生産に対する明るさと環状剥皮処理の効果: 採種園管理に対する示唆)、Forests、11(10):11110、

- doi:10.3390/f11101110、2020.10.
2. MATSUSHITA Michinari(松下通也)、NISHIKAWA Hiroki(西川浩己・山梨県森林総合研究所)、TAMURA Akira(田村明)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、The record of orchard trees. (カラマツ着花特性情報の記録)、Zenodo、doi: 10.5281/zenodo.4017235、2020.09.
  3. 木村恵、大平峰子、山野邊太郎、スギの種子発芽に及ぼす温度の影響、日本森林学会大会学術講演集、132:F5、2021.03.
  4. 古本拓也(広島県立総合技術研究所林業技術センター)、織部雄一郎、涌嶋智(広島県立総合技術研究所林業技術センター)、坂田勉(広島県立総合技術研究所林業技術センター)、BAP を含有する農薬を用いたクロマツ雌花の着生促進、日本森林学会大会学術講演集、132:P-154、2021.03.
  5. 花岡創、採種園着花調査及び検定林調査が果たす役割と得られた成果の紹介、北の国・森林づくり技術交流発表集(令和元年度)、98-102、2020.09.
  6. 中田了五、ヤチダモの早期着花、北海道の林木育種、63(1):18-22、2020.10.
  7. 宮本尚子、飯塚和也(宇都宮大学農学部)、今野幸則(宮城県林業技術総合センター)、永野聡一郎、那須仁弥、織部雄一郎、竹田宣明、スギにおける野外での溶液授粉の効果、日本森林学会大会学術講演集、132:F3、2021.03.

## 05 採種園、その他無性繁殖

### 051 さし木、つぎ木、発根性等

1. 山野邊太郎、ヒノキの管接ぎによるクローン増殖、林木育種情報、34:3、2020.07.
2. 山野邊太郎、中島剛(青森県林業研究所)、井城泰一、大平峰子、平尾知士、洗濯バサミを保定具としたクロマツの接ぎ木、関東森林学会大会講演要旨集、10:育種47、2020.10.
3. 山野邊太郎、中島剛(青森県林業研究所)、井城泰一、大平峰子、平尾知士、洗濯バサミを保定具としたクロマツの接ぎ木、関東森林研究、72(1):65-68、2021.03.
4. 大平峰子、採種木およびコンテナ苗由来のスギさし穂の重量が発根に及ぼす影響、日本森林学会大会学術講演集、132:P-158、2021.03.
5. 加藤一隆、花岡創、福田陽子、玉城聡、北海道産スギ精英樹のさし木試験、北方森林学会大会研究発表プログラム、69:P-1、2020.11.
6. 矢野慶介、那須仁弥、湯浅真、谷口亨、宮下智弘(山形県森林研究研修センター)、渡部公一(山形県森林研究研修センター)、さし付け時期の違いがオノエヤナギのさし木発根率および生存率に与える影響、日本森林学会大会学術講演集、132:P-111、2021.03.
7. 矢野慶介、東北育種場における早生樹オノエヤナギ育成の取組、東北の林木育種、226:3、2021.02.
8. 栗田学、久保田正裕、倉本哲嗣、土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる手法「エアざし」の開発、森林技術、945:28-31、2021.01.
9. 伊藤哲(宮大農)、松枝亮良(宮大農)、平田令子(宮大農)、中山葉月(宮大農)、山岸極(宮大農)、栗田学、長倉良守(長倉樹苗園、異なる灌水および施肥下で育成したスギ挿し木コンテナ苗の植栽後の活着と初期成長、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号401、2020.10.
10. 栗田学、久保田正裕、渡辺敦史(九大院)、大塚次郎、松永孝治、倉原雄二、福田有樹、倉本哲嗣、空中さし木法によるスギさし穂の発根条件の最適化ー散水頻度の検討ー、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号606、2020.10.

11. 大庭由加里(九大院)、栗田学、渡辺敦史(九大院)、スギさし木不定根誘導シグナルの検討、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号 607、2020. 10.
12. 栗田学、武津英太郎、高地伸夫(農研機構)、松永孝治、倉原雄二、福田有樹、久保田正裕、スギさし木苗の形状を制御する光環境条件の検討、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:9(P04)、2020. 11.
13. 栗田学、高地伸夫(農研機構)、林篤司(かずさ DNA 研)、武津英太郎、能勢美峰、兒玉晋洋(かずさ DNA 研)、七夕高也(かずさ DNA 研)、磯部祥子(かずさ DNA 研)、スギさし木苗の肥大成長に影響する環境要因の解明に向けて—三次元形状モデリングシステムの活用—、ビジョン技術の実利用ワークショップ講演論文集(2020)、350-354、2020. 12.
14. 栗田学、福田有樹、久保田正裕、倉本哲嗣、松永孝治、倉原雄二、渡辺敦史(九大院)、空中さし木法を用いた不定根形成に必要な環境要因の解析、日本森林学会大会学術講演集、132:P-157、2021. 03.
15. 栗田学、土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる技術「エアざし」の開発、林木育種情報、35:3、2020. 11.

## 052 組織培養

1. 竹内信吾(北海道大学)、中田了五、山岸祐介(北海道大学)、シナノキの組織培養、日本木材学会北海道支部講演集、52:19-21、2020. 11.
2. 海老原樹(北海道大学)、金ヶ崎玲(北海道大学)、竹内信吾(北海道大学)、中田了五、山岸祐介(北海道大学)、組織培養過程におけるヤマナラシの脱水潤化、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P24、2021. 03.
3. 野澤陽子(東京農工大学)、中田了五、半智史(東京農工大学)、船田良、トドマツ成熟種子からの不定胚形成細胞を経由した植物体再生、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P11、2021. 03.
4. 柳田彬宏(東京農工大学)、野澤陽子(東京農工大学)、森惇哉(東京農工大学)、平木李奈(東京農工大学)、中田了五、半智史(東京農工大学)、船田良(東京農工大学)、エゾマツの成熟種子胚を用いた組織培養による植物体再生に関する研究、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P22、2021. 03.
5. 小長谷賢一、谷口亨、薬用樹木カギカズラの組織培養による増殖法の改良、日本森林学会大会学術講演集、132:P-399、2021. 03.

## 06 育苗・その他形質記録

### 061 育苗

1. 田村明、遠藤圭太、高橋誠、高CO<sub>2</sub>施肥による苗木の成長促進効果、日本森林学会大会学術講演集、132:P-160、2021. 03.
2. 生方正俊、山口秀太郎、早生広葉樹の育苗技術の開発に向けて—ユリノキ、チャンチンの効果的な種子精選方法—、林木育種情報、35:4-5、2020. 11.
3. 生方正俊、山口秀太郎、磯田圭哉、ユリノキおよびチャンチンの育苗特性の解明、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:18(P21)、2020. 11.
4. 松枝亮良(宮大農)、山岸極(宮大農)、伊藤哲(宮大農)、平田令子(宮大農)、栗田学、長倉良守(長倉樹苗園)、コンテナ移植後のスギ挿し木根鉢形成を促進する最適な施肥および灌水量、



- 九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号 402、2020. 10.
5. 伊藤哲(宮大農)、松枝亮良(宮大農)、平田令子(宮大農)、山岸極(宮大農)、栗田学、長倉良守(長倉樹苗園)、植栽時の性状および植栽後の成長からみた“よい”スギ挿し木苗の育苗条件、日本森林学会大会学術講演集、132:P-091、2021. 03.

## 07 樹木園、緑化樹及び広葉樹の育種

### 072 広葉樹の育種

1. 大宮泰徳、鳥丸猛(三重大学)、赤田辰治(弘前大学)、東北ブナつぎ木クローン採種園の開花周期調査、日本生態学会大会講演要旨集、68:P2-111、2021. 03.
2. 谷口亨、薬用の木本植物の現状と薬用のつる性木本カギカズラの優良系統選定の取り組み、北方林業、72(1):18-22、2021. 01.
3. GONG Qinyue(宮欽樂・名古屋大学)、AOKI Dan(青木弾・名古屋大学)、MATSUSHITA Yasuyuki(松下泰之・名古屋大学)、YOSHIDA Masato(吉田正人・名古屋大学)、TANIGUCHI Toru(谷口亨)、ENDO H Keita(遠藤圭太)、FUKUSHIMA Kazuhiko(福島和彦・名古屋大学)、Distribution of berberine and palmatine in freeze-fixed stems of *Phellodendron amurense*. (凍結固定したキハダの茎におけるベルベリンとパルマチンの分布)、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P173、2021. 03.
4. 那須仁弥、東北地方に適した早生広葉樹ユリノキ、岩手の林業、令和2年度3月号:9、2021. 03.

## 08 森林保護技術と被害様式

### 081 気象害抵抗性育種(凍害、寒風害、雪害等)

1. 松永孝治、栗田学、福田有樹、倉原雄二、久保田正裕、2020年春に九州育種場で発生したクロマツ雌花の霜被害に影響した要因の解析、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号 602、2020. 10.

### 082 病虫害抵抗性育種(昆虫害、病害等)

1. 山野邊太郎、辻山善洋、宮下智弘(山形県森林研究研修センター)、岩井淳治(新潟県森林研究所)、井城泰一、洗濯バサミによるクロマツ接ぎ木苗を検体としたマツノザイセンチュウ接種検定、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:16(P17)、2020. 11.
2. 大平峰子、山野邊太郎、坪村美代子、松永孝治、クロマツ実生コンテナ苗へのマツノザイセンチュウ接種法の検討、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:14(P14)、2020. 11.
3. 玉城聡、花岡創、加藤一隆、辻山善洋、矢野慶介、那須仁弥、エゾマツカサアブラムシに対する抵抗性個体と一般のエゾマツを用いた交配家系における抵抗性の違い、北方森林学会大会研究発表プログラム、69:P-15、2020. 11.
4. 玉城聡、エゾマツカサアブラムシ抵抗性品種の子供はどれくらい被害が少ないのか?、北海道育種場だより 野幌の丘から、191:7、2021. 03.
5. 織部雄一郎、東日本大震災で壊滅した東北地方の海岸防災林の再生現場への抵抗性クロマツ苗木の安定供給、森林防疫、69(4):3-12、2020. 07.
6. IKI Taiichi(井城泰一)、MATSUNAGA Koji(松永孝治)、HIRAO Tomonori(平尾知士)、OHIRA Mineko(大平峰子)、YAMANOBÉ Taro(山野邊太郎)、IWAISUMI G. Masakazu(岩泉正和)、MIURA Masahiro(三浦真弘)、ISODA Keiya(磯田圭哉)、KURITA Manabu(栗田学)、TAKAHASHI Makoto(高

- 橋誠)、WATANABE Asushi (渡辺敦史・九州大学)、Effects of Temperature Factors on Resistance against Pine Wood Nematodes in *Pinus Thunbergii*, Based on Multiple Location Sites Nematode Inoculation Tests. (複数試験地のマツノザイセンチュウ接種試験に基づいた抵抗性クロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性に対する温度要因の影響)、Forests、11(9):922、DOI:10.3390/f11090922、2020.09.
7. 井城泰一、山野邊太郎、アカマツ精英樹人工交配家系におけるマツノザイセンチュウ抵抗性、日本森林学会大会学術講演集、132:P-161、2021.03.
  8. 井城泰一、谷口亨、笹島芳信、飯野貴美子、増山真美、成田有美子、東北育種基本区におけるマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発—令和元年度優良品種・技術評価委員会で評価された品種の実施結果—、林木育種センター年報(令和2年版)、109-112、2021.03.
  9. 宮下久哉、三浦真弘、山田浩雄、スギカミキリ抵抗性交配家系を植栽した次代検定林における抵抗性検定に向けた事前検討、応用森林学会大会研究発表要旨集、71:23(A17)、2020.11.
  10. 岩泉正和、徳島県大里松原における抵抗性クロマツの植栽試験の開始と新たな抵抗性個体の選抜、関西育種場だより、93:3、2020.12.
  11. 岩泉正和、横山桂一郎(香川県森林センター)、表崎晃(香川県森林センター)、香川県抵抗性マツ採種園における抵抗性種苗の20年間の接種データに基づくランキング評価、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:15(P15)、2020.11.
  12. TOGASHI Katsumi(富樫一巳・東京大学大学院農学生命科学研究科)、MATSUNAGA Koji(松永孝治)、ARAKAWA Yho(荒川洋)、MIYAMOTO Naoto(宮本尚人)、Random dispersal of *Bursaphelenchus xylophilus* (Nematoda: Aphelenchoididae) in *Pinus densiflora* branches. (アカマツの枝におけるマツノザイセンチュウのランダム分散)、Plant Pathology、69(7):1368-1378、2020.08.
  13. MATSUNAGA Koji(松永孝治)、IKI Taiichi(井城泰一)、HIRAO Tomonori(平尾知士)、OHIRA Mineko(大平峰子)、YAMANOBÉ Taro(山野邊太郎)、IWAIZUMI G. Masakazu(岩泉正和)、MIURA Masahiro(三浦真弘)、ISODA Keiya(磯田圭哉)、KURITA Manabu(栗田学)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学農学研究院)、Do seedlings derived from pinewood nematode-resistant *Pinus thunbergii* clones selected in southwestern region perform well in northern region in Japan? Inferences from nursery inoculation tests. (西南日本地域で選抜したマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ由来の実生は北部地域で性能を発揮するか? 苗畑の接種試験からの推測)、Forests、11(9):955、2020.09.

### 083 耐やせ地性等

1. 恒川健太(愛知県農業総合試験場)、松下通也、高野(竹中)宏平(長野県環境保全研究所)、吉利怜奈(農業・食品産業技術総合研究機構)、赤松佑紀(農業・食品産業技術総合研究機構)、杉浦兼之(愛知県農業総合試験場)、メッシュ農業気象データシステムを活用したフジコナカイガラムシおよびナシマルカイガラムシの防除適期予測、関西病虫害研究会報、62:71-77、2020.09.
2. 鶴川 信(鹿大農)、藤澤義武、大塚次郎、近藤禎二、生方正俊、コウヨウザン苗の食害に対するミカンネット被覆およびカプサイシン散布の効果、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号413、2020.10.
3. 鶴川 信(鹿大農)、藤澤義武、大塚次郎、近藤禎二、生方正俊、コウヨウザン苗の食害に対

- するミカンネット被覆およびカプサイシン散布の効果、九州森林研究、74:19-23、2021.03.
4. 鶴川 信(鹿大農)、藤澤義武、大塚次郎、近藤禎二、生方正俊、ニホンノウサギによる食害とその防除がコウヨウザン 1 年生苗の生残および成長に与える影響、日本森林学会誌、102(5):317-323、2020.10.

## 09 育種材料の特性

### 091 総合特性(成長、形態等)

1. 齋藤央嗣(神奈川県自然環境保全センター)、森口喜成(新潟大学)、高橋誠、平岡裕一郎(静岡県立農業環境専門職大学)、山野邊太郎、ヒノキ両性不稔品種“神奈川無花粉ヒ1号”の特性、神奈川県自然環境保全センター報告、16:1-8、2020.08.
2. 江藤信輔(電気通信大学)、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、松下通也、高橋誠、増田宏(電気通信大学)、TLS 点群を用いた森林の樹木形質の抽出手法、日本森林学会大会学術講演集、132:F1、2021.03.
3. 坪村美代子、松下通也、高島有哉、大平峰子、田村明、雄性不稔スギ「爽春」人工交配 F2 家系の特性評価、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:11(P08)、2020.11.
4. 坪村美代子、田村明、高橋誠、無花粉スギ系統のカタログ化、林木育種情報、35:2、2020.11.
5. 田村明、高島有哉、松下通也、長谷部辰高、スギさし木苗木の成長試験について、林木育種センター年報(令和2年版)、116-118、2021.03.
6. 花岡創、トドマツの特定母樹の指定—令和2年度の成果—、北の森だより、25:6-7、2021.03.
7. 那須仁弥、矢野慶介、湯浅真、宮本尚子、井城泰一、谷口亨、竹田宣明、東北育種基本区におけるスギおよびカラマツの特定母樹への申請の取組と指定された個体の特性—令和元年度の取組—、林木育種センター年報(令和2年版)、107-108、2021.03.

### 092 成長

1. 小野田雄介(京都大)、田中一成(京都大)、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、松下通也、スギの系統による森林生産の違いとその要因分析、日本生態学会大会講演要旨集、68:W12-2(自由集会)、2021.03.
2. 花岡創、中田了五、福田陽子、玉城聡、加藤一隆、グイマツ雑種 F1 の優良系統で構成された林分における初期成長と成長に対する植栽密度の効果、北方森林研究、69:3-6、2021.02.
3. 花岡創、中田了五、福田陽子、玉城聡、加藤一隆、グイマツ雑種 F1 の優良系統で構成された林分における初期成長と成長に対する植栽密度の効果、北方森林学会大会研究発表プログラム、69:P-9、2020.11.
4. 那須仁弥、岩泉正和、栗田学、磯田圭哉、アカマツ広域産地試験の岩手県滝沢試験地における季節成長の産地間変異、日本森林学会大会学術講演集、132:F6、2021.03.
5. 三浦真弘、新原一海(岡山県森林研)、坪田幸徳(愛媛県林研セ)、上杉基(宮崎県林技セ)、武津英太郎、栗田学、高橋誠、西南日本の3地域におけるスギ精英樹の植栽3年後の成長、日本森林学会大会学術講演集、132:P-164、2021.03.
6. 袴田哲司(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)、山本茂弘(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)、近藤晃(静岡県西部農林事務所天竜農林局)、三浦真弘、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、加藤一隆、スギコンテナ苗の植栽時のサイズと初期成長の関係、森林遺伝育種、9(2):51-60、2020.04.

7. 久保田正裕、倉原雄二、松永孝治、栗田学、福田有樹、ヒノキ第二世代精英樹等さし木クロウンの初期成長について、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号 611、2020. 10.

### 093 材質(心材色を含む)

1. 工藤佳世(秋田県立大学木材高度加工研究所)、織部雄一朗、佐藤博文(秋田県林業研究研修センター)、高田克彦(秋田県立大学木材高度加工研究所)、落葉広葉樹環孔材における二次木部形成の季節変化、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:3-01-04、2021. 03.
2. 平野優(信州大学)、斎藤琢(岐阜大学)、武津英太郎、小林元(信州大学)、村岡裕由(岐阜大学)、沈昱東(信州大学)、安江恒(信州大学)、中部地方に生育するスギの年輪構造と気候要素との関係、木材学会誌、66(3):117-127、2020. 07.
3. 武津英太郎、倉本哲嗣、倉原雄二、松永孝治、栗田学、千吉良治、成長および遺伝子型の異なるスギにおける材密度とマイクロフィブリル傾角の遺伝性の時系列変動、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P48、2021. 03.
4. 花岡創、中田了五、福田陽子、玉城聡、加藤一隆、グイマツ雑種 F1 優良系統の材質に対する植栽密度の影響、日本森林学会大会学術講演集、132:P-163、2021. 03.
5. 中田了五、樹木樹幹含水率の長期変動、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:3-01-01、2021. 03.
6. Bayasaa Tumenjargal(宇都宮大学)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、IKI Taiichi(井城泰一)、TAKAHASHI Yusuke(高橋優介・宇都宮大学)、NEZU Ikumi(根津郁美・宇都宮大学)、OTSUKA Kouhei(大塚公平)、OHSHIMA Jyunichi(大島淳一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Clonal variations and effects of juvenile wood on lumber quality in Japanese larch. (カラマツ板材の材質におけるクローン間差および未成熟材部の影響)、Wood Material Science & Engineering、DOI:10.1080/17480272.2020.1779809、2020. 06.
7. 井城泰一、平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)、三浦真弘、武津英太郎、藤澤義武、スギにおける応力波伝播速度の遺伝子型と環境の交互作用の検討、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P42、2021. 03.
8. 宮下久哉、三浦真弘、山田浩雄、ヒノキ遺伝子保存林における採種源林分と後継林分との材質特性の比較、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P33、2021. 03.
9. TAKAHASHI Yusuke(高橋優介・宇都宮大学)、ISHIGURI Futoshi(石栗太・宇都宮大学)、AISO Haruna(相蘇春菜・静岡県立農林環境専門職大学)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎・静岡県立農林環境専門職大学)、IKI Taiichi(井城泰一)、OHSHIMA Junichi(大島潤一・宇都宮大学)、IIZUKA Kazuya(飯塚和也・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Inheritance of static bending properties and classification of load-deflection curves in *Cryptomeria japonica*. (スギにおける静的曲げ物性の遺伝性および荷重たわみ曲線の区分)、Holzforschung、75(2):105-113、<https://doi.org/10.1515/hf-2019-0316>、2020. 08.
10. 倉原雄二、栗田学、久保田正裕、福田有樹、スギ第二世代精英樹候補木クロウンの心材含水率の評価、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号 612、2020. 10.
11. 倉原雄二、栗田学、久保田正裕、九州育種基本区におけるスギ心材含水率評価の取り組み、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:13(P12)、2020. 11.
12. 倉原雄二、栗田学、久保田正裕、福田有樹、武津英太郎、九州育種基本区におけるスギ心材

- 含水率の林分間変動、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P38、2021.03.
13. 倉原雄二、栗田学、久保田正裕、福田有樹、スギ第二世代精英樹候補木クローンの心材含水率の評価、九州森林研究、74:77-80、2021.03.

## 095 その他

1. 坪村美代子、高温・乾燥がスギ雄花着花量に与える影響の評価、日本森林学会大会学術講演集、132:S9-6、2021.03.
2. 玉城聡、花岡創、福田陽子、アカエゾマツの個葉と枝レベルで推定したNDVIとクロロフィル濃度の関係、日本森林学会大会学術講演集、132:P-186、2021.03.
3. 田邊純(千葉大学)、山本生成(千葉大学)、花岡創、アカエゾマツ精英樹の容積密度における半径方向変動のクローン間変異、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:3-05-04、2021.03.
4. 深見泰河(東京農工大学)、中田了五、船田良(東京農工大学)、半智史(東京農工大学)、交雑ポプラ放射柔細胞の細胞死過程における内容物の変化、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P25、2021.03.
5. 福田陽子、花岡創、玉城聡、加藤一隆、UAV空撮画像を利用したグイマツとグイマツ雑種F1の黄葉フェノロジーの比較、日本森林学会大会学術講演集、132:P-170、2021.03.
6. 河合慶恵、地域差検定林の生存データを用いて環境適応性を解明する試み、関西育種場だより、92:2、2020.07.
7. 宮下久哉、三浦真弘、関西育種基本区で開発したスギ少花粉品種の若齢時における雄花着生性の評価、日本森林学会大会学術講演集、132:P-150、2021.03.
8. TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、HIRAOKA Yuichiro(平岡裕一郎・静岡県立農林環境専門職大学)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、Evaluation of Responsivity to Drought Stress Using Infrared Thermography and Chlorophyll Fluorescence in Potted Clones of *Cryptomeria japonica*. (スギのポット植栽苗における赤外線サーモグラフィーおよびクロロフィル蛍光法を用いた乾燥ストレス応答性の評価)、Forests、12(1):55、2021.01.
9. 高島有哉、人工環境下におけるスギ苗の環境応答性評価技術の開発と多数系統評価、日本森林学会大会学術講演集、132:S9-3、2021.03.
10. 三浦真弘、ジベレリン処理によるスギの雄花着花評価技術—新たな花粉症対策品種開発のために—、関西育種場だより、93:2、2020.12.
11. 岩泉正和、河合貴之、林田修、大久保典久、笹島芳信、磯田圭哉、稀少樹種トガサワラの関西育種場における生育試験、林木育種センター年報(令和2年版)、137-140、2021.03.

## 10 遺伝資源

### 101 収集、保存

1. 遠藤圭太、板鼻直榮、松下通也、山田浩雄、生方正俊、絶滅危惧種オガサワラグワの種子生産と凍結保存、低温生物工学会セミナー及び年会講演要旨集、65:G4、2020.05.
2. FUJIKAWA Seizo(藤川清三・北海道大学)、ENDO H Keita(遠藤圭太)、Cryo-Scanning Electron Microscopy to Study the Freezing Behavior of Plant Tissues. (植物の凍結挙動解析のための低温走査型電子顕微鏡)、Plant Cold Acclimation Methods and Protocols Second Edition、99-117、2020.07.
3. 織部雄一郎、里帰りした後継樹を訪ねて、林野、167:10-11、2021.02.

4. 千吉良治、松下通也、フクギのさし木苗と実生苗の野外植栽後1年目の活着状況と形状、亜熱帯森林・林業研究会研究発表会、No.2、2020.12.
5. 米岡宏喜(北海道大学)、花岡創、遠藤圭太、荒川圭太(北海道大学)、ブナ種子の乾燥耐性、日本木材学会北海道支部講演集、52:11、2020.11.
6. 那須仁弥、矢野慶介、谷口亨、東北地方におけるユリノキ優良個体の収集、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:17(P19)、2020.11.
7. 那須仁弥、東北における早成樹ユリノキ優良個体の収集、東北の林木育種、226:2、2021.02.

## 102 分類、同定、評価

1. KIMURA Megumi K. (木村恵)、INOUE Mizuki (井上みずき・日本大)、KAWAMURA Ryoma (川村遼馬・日本大・京都府立大)、KOIKE Misato (小池みさと・日本大)、FURUMOTO Ryo (古本良)、KUSUMOTO Buntarou (楠本聞太郎・王立キュー植物園、琉球大)、FUJI Akinori (藤彰矩・琉球大)、KUBOTA Yasuhiro (久保田康弘・琉球大)、ENOKI Tsutomu (榎木勉・九州大)、Seed size and weight of 129 tree species in Japan. (日本に生育する樹木129種の種子サイズと種子重)、Ecological Research、35(5):787-791、<https://doi.org/10.1111/1440-1703.12139>、2020.09.
2. 木村恵、林木ジーンバンクに保存された種子の形質データの公開、林木育種情報、35:6、2020.11.
3. 木村恵、福山友博、磯田圭哉、平尾知士、稲永路子、湯滝ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林の10年間の動態、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:21(P27)、2020.11.
4. KIMURA K. Megumi (木村恵)、NAGASHIMA Takashi (長島崇史・新潟大)、KAMITANI Tomohiko (紙谷智彦・新潟大)、SAKIO Hitoshi (崎尾均・新潟大)、TSUMURA Yoshihiko (津村義彦・筑波大)、Recent clonal reproduction of *Cryptomeria japonica* in a snowy region revealed by a survey of small-sized ramets. (小サイズラメットのクローン解析で明らかになった多雪地域のスギの栄養繁殖)、Silvae Genetica、69:152-157、2020.12.
5. NISHIO Sogo (西尾聡悟・農食研)、TAKADA Norio (高田教臣・農食研)、TERAKAMI Shingo (寺上伸吾・農食研)、TAKEUCHI Yukie (竹内由季恵・農食研)、KIMURA K. Megumi (木村恵)、ISODA Keiya (磯田圭哉)、SAITO Toshihiro (齋藤寿広・農食研)、IKETANI Hiroyuki (池谷祐幸・岡山理科大)、Genetic structure analysis of cultivated and wild chestnut populations reveals gene flow from cultivars to natural stands. (栽培クリと野生クリ集団の遺伝的構造解析により明らかになった栽培品種から自然個体群への遺伝子流動)、Scientific Reports、11:240、2021.01.
6. 木村恵、福山友博、磯田圭哉、平尾知士、稲永路子、湯滝ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林(栃木県日光市)におけるモニタリング調査(10年目)の結果、林木育種センター年報(令和2年版)、131-136、2021.03.
7. 木村恵、散布の翌年には発芽しない? — 斉結実したスズタケの種子発芽特性 —、日本生態学会大会講演要旨集、68:P2-092、2021.03.
8. 木村恵、書評 原正利(2019)「どんぐりの生物学—ブナ科植物の多様性と適応戦略—」京都大学学術出版会 322pp、日本生態学会ニュースレター、51:28-29、2020.05.
9. Qi-Fang Geng (南京大・東京大)、Zhong-Sheng Wang (南京大)、Jian-Min Tao (南京農大)、Megumi K. Kimura (木村恵)、Hong Liu (フロリダ国際大)、Taizo Hogetsu (東京大) and Chun-Lan Lian (東京大)、Ocean currents drove genetic structure of seven dominant mangrove species

- along the coastlines of southern China (中国南部沿岸に優占するマングローブ7種の海流によって変化した遺伝的構造)、Frontiers in Genetic 12、<https://doi.org/10.3389/fgene.2021.615911>、2021.03.
10. 磯田圭哉、山口秀太郎、近藤禎二(森林総研非常勤職員)、大塚次郎、生方正俊、小松沢国有林(茨城県日立市)におけるコウヨウザン植栽3年間の成長経過、関東森林学会大会講演要旨集、10:育種46、2020.10.
  11. 近藤禎二(森林総研非常勤職員)、藤澤義武(森林総研非常勤職員)、山口秀太郎、磯田圭哉、生方正俊、涌嶋智(広島県林業技術センター)、古本拓也(広島県林業技術センター)、渡辺靖崇(広島県林業技術センター)、25年生コウヨウザンの樹幹解析、関東森林学会大会講演要旨集、10:育種44、2020.10.
  12. 磯田圭哉、山口秀太郎、近藤禎二(森林総研非常勤職員)、大塚次郎、生方正俊、小松沢国有林(茨城県日立市)におけるコウヨウザン植栽3年間の成長経過、関東森林研究、72(1):61-64、2021.03.
  13. 稲永路子、平尾知士、高田克彦(秋田県立大学木材高度加工研究所)、アスナロ属葉組織における耐凍性関連遺伝子の発現解析、日本森林学会大会学術講演集、132:P-134、2021.03.
  14. 稲永路子、鈴木伸吾(北海道大院農学・北海道大院歯学学支)、工藤尚美(北海道大院農学)、古賀泰雅(北海道大農学)、遠藤圭太、荒川圭太(北海道大農学研究院)、アスナロ属葉組織の低温順化過程における耐凍性および糖含有量の変化、日本生態学会大会講演要旨集、68:P2-106、2021.03.
  15. 稲永路子、高田克彦(秋田県立大学木材高度加工研究所)、クロロフィル蛍光測定によるアスナロ属(genus *Thujaopsis*)植物群の耐凍性獲得過程の推定、秋田県立大学ウェブジャーナルA(地域貢献と研究成果)、8:25-31、2020.10.
  16. 稲永路子、ブナの花散布パターンおよびその種子と実生段階における適応的意義、森林遺伝育種、9(2):70-75、2020.04.
  17. 生方正俊、山口秀太郎、福山友博、弓野奨、竹中拓馬、藤原優理、ドロノキさし木苗における3年間の成長のクローン間変異、日本森林学会大会学術講演集、132:P-166、2021.03.
  18. 生方正俊、中田了五、北海道産ドロノキの葉形質の変異、日本生態学会大会講演要旨集、68:P2-088、2021.03.
  19. 宮下久哉、山本あゆみ、祐延邦資、林田修、河合貴之、坂本庄生、山田浩雄、関西育種基本区において選抜したセンダン優良個体の核果の発芽試験、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:16(P18)、2020.11.
  20. 岩泉正和、三浦真弘、磯田圭哉、久保田正裕、関西育種基本区におけるヒノキ第一世代および第二世代精英樹集団の遺伝的多様性と血縁評価、森林遺伝育種、9(3):94-104、2020.07.
  21. 岩泉正和、今野敏彦、河合貴之、平尾知士、四国におけるマツ精英樹集団の遺伝的多様性評価:抵抗性マツ・野外集団との比較、応用森林学会大会研究発表要旨集、71:22(A16)、2020.11.
  22. IWAIZUMI G. Masakazu(岩泉正和)、TAKAHASHI Makoto(高橋誠)、YANO Keisuke(矢野慶介)、Temporal variation in regeneration events affecting population structure in different size- and life-stages contributes to overall genetic diversity of natural *Zelkova serrata* population(ケヤキ集団内における更新イベントの時間的変異が異なるサイズ階級と生育段階での集団構造をもたらす集団全体の遺伝的多様性に貢献する)、Journal of Forest Research、26(1):32-42、2020.11.

23. 岩泉正和、篠崎夕子、河合慶恵、山田浩雄、那須仁弥、磯田圭哉、アカマツ広域産地試験の山陰試験地における初期成長と球果着生量の産地間差、日本生態学会大会講演要旨集、68:P2-087、2021.03.
24. 池田希(鹿大農) 鶴川信(鹿大農)、藤澤義武 大塚次郎、近藤禎二、生方正俊、植栽時期を変えたコウヨウザンコンテナ苗の成長、九州森林学会大会研究発表プログラム、76:講演番号 415、2020.10.
25. Aziz Akbar Mukasyaf(九州大学農学研究院)、MATSUNAGA Koji(松永孝治)、TAMURA Miho(田村美帆・九州大学農学研究院)、IKI Taiichi(井城泰一)、WATANABE Atsushi(渡辺敦史・九州大学農学研究院)、IWAIZUMI G. Masakazu(岩泉正和)、Reforestation or genetic disturbance: a case study of *Pinus thunbergii* in the Iki-no-Matsubara coastal forest (Japan). (植えることを考えるべきか? 遺伝的攪乱を考えるべきか?: 日本の海岸クロマツ林『生の松原』における事例)、Forests、12(2):72、2021.02.

## 1 1 天然林等の育種

### 1 1 1 天然林の育種

1. INANAGA Michiko(稲永路子)、HASEGAWA Yoichi(長谷川陽一)、MISHIMA Kentaro(三嶋 賢太郎)、TAKATA Katsuhiko(高田克彦・秋田県立大学木材高度加工研究所)、Genetic Diversity and Structure of Japanese Endemic Genus *Thujopsis* (Cupressaceae) Using EST-SSR Markers. (EST-SSR マーカーによる日本固有のアスナロ属(ヒノキ科)の遺伝的多様性と構造)、Forests、11(9):935、2020.09.
2. Bayasaa Tumenjargal(宇都宮大学、モンゴル科学技術大学)、ISHIGURI Futoshi(石栗 太・宇都宮大学)、AISO Haruna(相蘇春菜・静岡県立農林環境専門職大学)、TAKAHASHI Yusuke(高橋優介・宇都宮大学)、NEZU Ikumi(根津郁実・宇都宮大学)、TAKASHIMA Yuya(高島有哉)、Bayartsetseg Baasan(モンゴル科学技術大学)、Ganbaatar Chultem(モンゴル科学技術大学)、OHSHIMA Junichi(大島潤一・宇都宮大学)、YOKOTA Shinso(横田信三・宇都宮大学)、Physical and mechanical properties of wood and their geographic variations in *Larix sibirica* trees naturally grown in Mongolia. (モンゴルの天然林に生育したシベリアカラマツにおける木材の物性および機械特性とその地理的変異)、Scientific Reports、10:12936、2020.07.

## 1 2 外国樹種の育種

### 1 2 1 外国樹種の育種

1. 千吉良治、優れた造林特性を持つアカシア種間雑種クローンの開発、林木育種情報、36:5、2021.03.

## 1 3 会議報告

1. 竹内啓恵(東京大)、岩永青史(名古屋大)、木村恵、武正憲(筑波大)、玉井幸治、片桐奈々(岐阜県森林研)、塚原正美(新潟県森林研)、山川博美、高山範理、日本森林学会大会学会企画「ダイバーシティ推進ランチョン Workshop2019」開催報告、森林科学、89:47-50、2020.06.
2. 高田まゆら(中央大)、曾我昌史(東京大)、木村恵、半場祐子(京都工芸繊維大)、三宅恵子(名古屋大)、可知直毅(首都大)、成田あゆ(道総研)、宮下直(東京大)、第18回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加して、日本生態学会ニュースレター、53:1-2、2021.01.



3. 成田あゆ(道総研)、木村恵、第18回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「若手女性研究者のリーダーシップ育成とネットワーク構築のための Workshop」参加報告、日本生態学会ニュースレター、53:3-4、2021.01.
4. 平尾知士、永野聡一郎、三嶋賢太郎、国際会議 Plant and Animal Genome XXVIII への参加報告、森林遺伝育種、9(3):117-119、2020.07.
5. 井城泰一、宮下久哉、国際会議「21st International Nondestructive Testing and Evaluation of Wood Symposium」に参加して、森林遺伝育種、9(2):82-83、2020.04.
6. 宮下久哉、国際学会「IUFRO Seed orchard Conference」への参加報告、森林遺伝育種、9(2):84-88、2020.04.
7. 岩泉正和、国際学会「IUFRO World Congress 2019」への参加報告、森林遺伝育種、9(3):113-116、2020.07.

## 15 その他

1. 宋夢迪(九州大学)、内海泰弘(九州大学)、古賀信也(九州大学)、金海婷(九州大学)、安田悠子、相衍(九州大学)、林飛艶(九州大学)、杜一枚(九州大学)、戴妮(九州大学)、宮崎県椎葉村に生育する低木の物理的・機械的特性、九州大学農学部附属演習林研究発表会 発表会要旨集、23:18、2021.01.
2. CHIWA Masaaki(智和正明・九州大学)、UTSUMI Yasuhiro(内海泰弘・九州大学)、TASHIRO Naoaki(田代直明・九州大学)、YASUDA Yuko(安田悠子)、SHINOZUKA Ken'ichi(篠塚健一・福岡工業大学)、Yang Ru(楊茹・九州大学)、NAGANO Nao(長野菜穂・九州大学)、MURATA Shusuke(村田秀介・九州大学)、NAKAMURA Takuma(中村琢磨・九州大学)、YAMAUCHI Kohei(山内康平・九州大学)、KABEMURA Yuji(壁村勇二・九州大学)、ANDO Tatsuro(安藤達郎・足寄動物化石博物館)、SAWAMURA Hiroshi(澤村寛・足寄動物化石博物館)、Nutrients exported from upland stream water enlarge perennial biomass crops. (上流部からの河川水で運ばれた養分が多年生バイオマス作物を巨大化させる)、Scientific Reports、11:2200、2021.01.
3. Khoem Koembuoy(名古屋大学)、HASEGAWA Shiori(長谷川詩織・名古屋大学)、OTAGAKI Shungo(太田垣駿吾・名古屋大学)、TAKAHASHI Hirokazu(高橋宏和・名古屋大学)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、ISOBE Sachiko(磯部祥子・かずさ DNA 研究所)、HIRATAKE Katsuhiko(白武勝裕・名古屋大学)、MATSUMOTO Shogo(松本省吾・名古屋大学)、RNA-seq Analysis of meristem cells identifies the FaFT3 gene as a common floral inducer in Japanese cultivated strawberry. (茎頂細胞の RNA-seq 解析による日本産栽培イチゴにおける花成促進因子 FaFT3 の特定)、Horticulture Journal、89(2):138-146、2020.04.
4. WADA Takuya(和田卓也・福岡県農林総合試験場)、TSUBONE Masao(坪根正雄・福岡県農林総合試験場)、MORI Miyuki(森美幸・福岡県農林総合試験場)、HIRATA Chiharu(平田千春・福岡県農林総合試験場)、NAGAMATSU Shiro(永松志朗・福岡県農林総合試験場)、OKU Koichiro(奥幸一郎・福岡県農林総合試験場)、NAGANO Soichiro(永野聡一郎)、ISOBE Sachiko(磯部祥子・かずさ DNA 研究所)、SUZUKI Hideyuki(鈴木秀幸・かずさ DNA 研究所)、SHIMOMURA Katsumi(下村克己・福岡県農林総合試験場)、BABA Noriko(馬場紀子・福岡県農林総合試験場)、HIRASHIMA Keita(平島敬太・福岡県農林総合試験場)、SUEYOSHI Takayuki(末吉孝行・福岡県農林総合試験場)、OBU Ko-ichi(小賦幸一・福岡県農林総合試験場)、IKEGAMI Hidetoshi(池上秀利・福岡県農林総合試験場)、UCHIMURA Yosuke(内村要介・福岡県農林総合試験場)、HAYASHIDA

- Tatsuya (林田達也・福岡県農林総合試験場)、Genome-wide association study of strawberry fruit quality-related traits using a MAGIC population derived from crosses involving six strawberry cultivars. (栽培イチゴ6品種の交配により育成したMAGIC集団を用いた果実関連形質に関するゲノムワイドアソシエーション解析)、Horticulture Journal、89(5):553-566、2020.06.
5. 星崎和彦(秋田県立大)、宮崎博之(秋田県立大)、松下通也、カメラトラップ法におけるツキノワグマ撮影データの質・量と推定個体数、日本森林学会大会学術講演集、132:S1-2、2021.03.
  6. Hui Wang(中国山東大)、Xiao Liu(中国山東大)、Ning Wang(中国山東大)、Kun Zhang(中国山東大)、Fengchuan Wang(中国山東大)、Shuping Zhang(中国山東大)、Renqing Wang(中国山東大)、Peiming Zheng(中国山東大)、MATSUSHITA Michinari(松下通也)、Key factors influencing public awareness of household solid waste recycling in urban areas of China: A case study. (環境リサイクルに対する一般認識に影響を与える主な要因)、Resources, Conservation and Recycling、158:104794、2020.07.
  7. 武津英太郎、松下通也、高島有哉、松永孝治、後処理キネマティック法による位置補正UAV画像を用いた個体位置計測の精度検証、森林遺伝育種学会大会講演要旨集、9:18(P22)、2020.11.
  8. 山本有菜(名古屋大学)、三井友宏(三重農研)、小林泰子(三重農研)、野村茂広(三重農研)、伊藤哲男(イトウグリーン)、谷口亨、今井貴規(名古屋大学)、日本産薬用植物カギカズラ(*Uncaria rhynchophylla*)における抽出成分の質的量的組織部位間差、日本木材学会大会研究発表要旨集、71:1P161、2021.03.
  9. 栗田学、研究成果を各学会で発表、九州育種場だより、42:3-4、2021.01.
  10. 松永孝治、竹田宣明、福山友博、武津英太郎、栗田学、林木育種におけるQRコードラベルの屋外耐久性実験、森林総合研究所研究報告、19(3):261-268、2020.10.
  11. 松永孝治、武津英太郎、入江博樹(国立熊本高等専門学校・建築社会デザイン工学科)、小型RTK-GNSSキットを用いた植栽個体の地理座標測位の精度の評価とその応用:林木育種における個体管理にむけて、日本森林学会誌、102(4):254-262、2020.08.
  12. 松永孝治、武津英太郎、入江博樹(国立熊本高等専門学校・建築社会デザイン工学科)、栗田学、倉原雄二、福田有樹、久保田正裕、複数検定林におけるRTK-GNSSを用いた苗木個体配置図の作成、日本森林学会大会学術講演集、132:P-171、2021.03.
  13. NANASATO Yoshihiko(七里吉彦)、TABELI Yutaka(田部井豊・農研機構)、A method of transformation and current progress in transgenic research on cucumbers and Cucurbita species. (キュウリとカボチャにおける形質転換方法と最新知見について)、Plant Biotechnology、37(2):141-146、2020.06.